

平成29年度 市民活動助成金事業一覧

	事業名 事業期間	実施団体 代表者名	事業の趣旨・目的	団体の目的
1	第3回絵本フェスタ川口	えいご・にほんご 絵本の会	「絵本の読み聞かせや語り」「絵本作家によるワークショップ」「絵本原画の展示」「イラストや手作り創作活動の展覧」「絵本製作にまつわるインタビュー」など、絵本をテーマに誰もが楽しめる「えほんまつり」を開催する。 人生最初に出会う文学であり、芸術である「絵本」を通して、子ども達が心豊かに成長できる環境づくりに寄与し、子ども読書活動の推進と地域文化の振興を図る。	国内外のわらべうた、民話、手遊び、絵本の読み聞かせを通して、子育て期の家庭の読書活動増進や子どもの健全育成をサポートする。
2	川口わっしょい2017	特定非営利活動法人 西興連	学校・家庭・地域社会のそれぞれが協力して「地域一体となった子育て支援」を実現するという趣旨により、「学校週5日制」で時間がありながら、家庭の事情で習い事のできない子どもたちに、活躍する場所・発表する舞台を提案し、子どもたちに「生きる力」を育むことをその目的とします。	川口市及びその近隣地域の神輿担ぎ手の親睦を図るとともに、伝統文化としての神輿の普及継承を中心として、地域文化の高揚と地域社会の活性化に寄与することを目的とする。
3	「みんな生きている 飼い主のいない猫と暮らして」上映会	かわぐちアニマル サポート	捨て猫、野良猫から保護にいたる過程を描いたこの映画を鑑賞するにより、命の大切さ、最後まで責任をもって動物を飼うことについて考えるきっかけとして、夏休みに企画しておりますのでお子様と一緒に鑑賞することで、ご家族で話し合うきっかけになることを目的として開催いたします。 また、平成30年に中核市となる川口市に動物管理施設が建設されることに伴い、猫の保護活動に日夜奮闘する人々について知ってもらい、地域猫についての活動の啓発を目的としています。	犬や猫などの保護活動を支援し啓発するための活動を行うことを目的とする。
4	郷土かるた“川口すごかるた”の普及啓発活動（郷土の歴史・文化の出会いと再発見による地域活性化）	川口すごかるた制作委員会	市民に川口をもっとよく知っていただき、郷土愛を育んでもらいたい。そのためには幼少時から地域に興味・関心を持つことが大切であると考えます。一人で遊ぶより、家族・地域・学校等で大勢の人が一緒に遊べる“すごろく”及び“かるた”という昔ながらの遊びを通じて、川口の自然、歴史、文化、名所、人物、特産物等を知り、郷土愛を育んでいけるよう、昨年度川口すごかるたを制作しました。今年度、郷土カルタに親しむ場や機会を創出するため、主に児童生徒を対象とした普及啓発に取り組んでいきます。	盛人大学地域デザインコース7期生の課題研究・グループ活動の中の1つで、同グループ並びに他グループ有志により成果の完成・発展を期す。活動は郷土愛を育むため、川口をより知る方法として、すごかるた（すごろくとかるた）を作成し、イベント等を通じ川口の魅力を知ってもらおう。
5	駅ナカ コミュニティサロン『鳩ヶ谷駅夜祭』10周年	特定非営利活動法人 鳩ヶ谷協働研究所	埼玉高速鉄道（SR）開通後、人口が増えたことで旧住民と新住民との触れ合える場（コミュニティサロン）を鳩ヶ谷駅で作ろうとイベントを始めて今年3月で10年を迎えました。様々な立場や世代の方々に関わっていただき実施してきた結果、定着してきたという声がある一方、鳩ヶ谷市と川口市が合併してから6年目ということで全市的にはまだまだ認知度が低い。更に、鳩ヶ谷地区のみならずSR沿線は新住民が増え続けていることもあり、まだまだ知られていない現状があります。また、人口は増え続けているために、10年前に始めた当初の目的の「新旧住民の触れ合う場」はまだまだ必要な状態。十周年を銘打って多世代の方々を協力をいただき目玉になる催しを実施し、PRを今まで以上に広く行い、認知度を上げることで来場者も関係者も増やし、より一層、「新旧住民の触れ合う場」を構築していく。	地域活性化のためのイベント事業。埼玉高速鉄道開通後、人口が増えてきた鳩ヶ谷地区。旧住民と新住民の交流が課題としてあり、その課題解決のひとつの方法として、鳩ヶ谷駅舎全館を使って誰でも参加できるイベントを開催。交流できるように、模擬店や発表会のみではなく様々なワークショップや市民講座も実施。模擬店等は川口に在住在勤等の方々。